

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームいせ
所在地 (県・市町村名)	三重県伊勢市一之木4丁目11-31
記入者名 (管理者)	長尾 久子
記入日	平成 20 年 10 月 3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の日々の生活の中に生き続ける理念であること、介護者側が自らの心の中へ問いかけ自己啓発できる理念であることを根底につくっています。人とし自分の力を使い、地域の中で、人と人が支え合い生きる…当たり前の日常をしっかり支援できることが必要と考えます。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、利用者個々の支援について日常的に職員と話しをするように心掛けている。人を支えるための大切なことは、支える側の見つめる目や想いがきちんとその人(入居者)に向いているかであり、職員側の視点で見えていないかを確認するよう努めている。価値観や個性の違う職員ひとりひとりの把握に努め、同じ方向を見つめ支援が行えるよう考え言葉をおくように心掛けている。	○	(休憩場が事務所内のため言葉をかけ易い点もあり)休憩中にコミュニケーションを図り職員の疑問に答えるようにしている。ようにしている。職員の話、日々の記録、申し送り事項の確認などで感じた考え方や関わり方への疑問点や問題と思われる点などは、ミーティングや日々の申し送りにて、徹底的に話し理念にそれないケア方法を導いていくようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームだよりの作成と配布及び家族懇談会や運営推進委員会においても日々の生活を紹介し、大切に考えていること(理念)を判り易く伝えるようにしている。自治会会合に出席し一緒に行事などの話をし共に地域で暮らす仲間であることを理解して頂くようにしている。	○	ホームだよりを家族、近隣住民、地域の商店、行きつけの喫茶店へ配布している。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、気軽に声をかけさせてもらい気兼ねなく話をして頂けるようにしている。畑仕事の近所の年代の方と入居者のみなさんとの井戸端会議に花咲き、お花や野菜などを頂くことがある。近隣にある行きつけの喫茶店の方はホームだよりを楽しみにしてくれている。	○	慰問などの行事に近隣のお年寄りを中心に声掛けて一緒に楽しんでもらっている。(案内を回覧して頂いたり、散歩の時出会うとお誘いするようにしている。)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会会合に出席他、地域の行事には積極的に参加している。ただ地域の高齢化に拍車がかかり地域行事や活動が少なくなってきたことが少し淋しい現状にある。	○	区単位で行われる消防訓練及び地区合同で行われる消防訓練に参加している。地域の盆踊り、餅つき、獅子舞などの行事に毎年参加している。近くにある建設労働組合の餅撒きには目を輝かせ参加、中々の収穫を持ち帰っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	様々な研修で得た情報等は地域の自治会長及び民生委員さんへ伝達し地域に対し事業者側が出来ることなどないか話し合っている。人材育成への貢献のため実習生の受け入れを積極的に行っている。	○	地域の高齢者の方々の楽しみとなるようにと、慰問などの行事に近隣のお年寄りをお誘いしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行いサービスと質の向上に繋げている。自己評価及び外部評価の結果を踏まえ、気づきと自己への啓発が喚起されるよう具体的に検討するようにしている。より良い生活支援に繋げてゆくた早期の改善に努めている。	○	自己評価は職員全員が行っている。自己評価実施後及び外部評価の結果の後、必ずミーティングにて話し合うようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や取り組みなどを報告し、意見を聞きとり、サービス向上に活かしている。報告の他、地域の方々がホームに気軽に来ていただけるきっかけとならないかと様々な提案を自治区会長や民生委員からの意見を聞き新しい取り組みの計画へと繋げるようにしている。	○	昨今頻発している天災などに対して対応方法などの質問があり、当年見直しを行い整備した災害時対応マニュアルを会議にて説明、報告した。地区で行われていた盆踊りが昨年よりなくなり残念との意見をホーム側から会議にて自治区長に伝えたところ本年はその代替えにビンゴゲームなどの催しを計画実行して頂いた。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者宛てにホームだよりを送付又は持参している。認定更新申請時や調査の機会を利用し調査後、担当者がゆっくり時間を取れる時に情報等を交換している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に勉強会を開き、理解を深めるようにしている。研修にも参加している。	○	職員に対し勉強会を行った。資料をいつでも閲覧できるように準備してある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県内の研修に参加。全職員にて防止に努めている。ケア理念上あってはならない厳守されることであることをケースカンファレンスなどでも具体的に説明するようにしている。	○	虐待防止についての資料など閲覧できるように準備してある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームのケアに関する考え方や取り組みへの理解・納得が得られるように十分時間をとりに説明している。重度化、看取りおける指針や医療連携体制についても詳しく説明をし同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が自由に本音で生活できるよう関係性に配慮し、その人の心にある思いを引き出す努力をしている。入居者の会話や仕草、表情からもその思いを見落とさないように注意し関わっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族時来訪時には暮らしぶりや最近の状況など話している。ホームだより、担当者からの日々の様子を綴った手紙や健康の記録、写真を送付し生活状況を伝えるようにしている。個々の金銭出納帳は毎月必ず領収書を添付し家族に報告している。	○	健康チェック表にて訪問看護や回診時の内容を、担当スタッフよりの手紙、写真を添え送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族も職員も5年以上の関係となる者多く気兼ねなく話してくれる雰囲気をと心がけている。管理者も面会時には必ず話しをするようにしている、入居者のことばかりでなく何気ない日常会話も必要と考え何でも話易い関係を作るようにと努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中で又、ミーティングなどの機会に意見、提案は聞き取り反映させている。日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、意見等出しやすい環境作りに努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員を即座に増やすことは困難であるが、可能な限り入居者の状態に合わせた支援が出来るローテーションを組むように努めている。	○	シフトの時間帯の変更は職員と話し合い決定している。管理者は状況に応じ対応できるように通常はシフトに入れないようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は無く、職員は5年以上の勤続が半数以上を占め、3年以上で考えると7割以上となり両ユニットの入居者と馴染みの関係となっている職員が多い。管理者は開設から変っていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内介護保険サービス事業連絡会や県、グループホーム連絡協議会の勉強会、研修会、親睦会などに参加している。研修内容はミーティングで伝達し研修資料などは全員で共有し閲覧できるようにしている。	○	事業所独自の採用時研修を必ず行っている。ケアの根本、基本的な理解を学んでから現場に入る仕組みを作っている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内介護保険サービス事業連絡会や県グループホーム連絡協議会の勉強会、研修会、親睦会などに参加する等の交流の中で情報交換、意見交換をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の心身の状態や人間関係の把握に努め、適時緩和するように心掛け、職場でストレスを溜めない関係作りに努めている。	○	年2回 親睦会を行っている。研修、事業者間の親睦会などへの参加を促している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者から個々の努力実績等を報告を受け把握の努めている。健康診断の実施他心身の健康を保つため十分な休息の取れるよう勤務体制の確保を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では、本人のペースに合わせながら、思いをしっかり聴き取り受け止めるように努力している。この瞬間から関係性が始まると考えている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話聞くこともホームの役割と考え、相談があったときは丁寧に時間をかけゆっくり聞くようにしている。今までの苦労など聞くことで緩和してゆくようにしている。	○	利用前には必ず見学に来ていただき雰囲気や管理者と話をしケアに対する考えなどを確認してもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	家族、友人、近所の方など親しい方の訪問をお願いしたり、了解を得てこちらから訪れたり今までの交流を大切にしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	献立を一緒に考えたり、食事作りなどの家事を共にに行い、昔話を聞く中で人生の先輩として教を請うことがある(聞き上手になり有用感へと話を導くように努めている。)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○	誕生日に家族様に声を掛け、喜びを共有できる時間を持って頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○	明るく生き活きた姿を支援してゆくことが家族の安堵に繋がり関係の再構築と繋がる、その人らしい姿をしっかり支援し日々の様子、本人の現状をありのまま知って頂くように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	馴染みの友人との観劇、会食、時には遊びに出かけたり変わらぬ交流の継続支援をしている。亡き夫または生家の墓参りなどを継続している。キリスト教信者の日曜ミサへ、及び同志の方の訪問を継続している。同窓会への出席を継続。近所の方との交流…柿が生ると昔と変わらずおすそ分けに来てくれる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○	優しく面倒見の良い方が会話にならない方の話し相手をしてくれる。食事への声かけをしっかりとの方がしている(いつもありがとうと感謝の言葉もかけられそれぞれが良好な関係に繋がっている)。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族からの相談も継続的に受けている。他事業所に移られた方に入居者と一緒に会いに行っている。	○	お誕生日に花束を持ち入居者と一緒に訪問することもある。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中に隠されている場合があり職員は常に利用者の会話に耳を傾け本人の思いを見逃さないように気をつけている。又一人ひとりとゆっくり話す機会をとるように心掛けている。意思表示困難な方も日常の関わりの中、表情や行動に隠されているちょっとしたサインをも逃さないように把握に努めている。	○	入居者の言葉が断片的で言葉の真相が不明な場合、家族から情報を頂くようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談及び入居後必要と思われる情報を家族、本人から聞き取り把握に努めるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	持っている力を使い人として当たり前の生活を続けてもらうために何が必要な支援かを考えていくことが非常に重要だと考えている。そのためにできることをしっかり把握する必要がある。断片的な角度でなく多角的に全体像を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で本人の思い要望を聞き、家族には面会時や手紙などにて意見を聞き計画作成に反映している。カンファレンスを行い日々の関わりで感じたこと気づいたことを職員全員で話合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月又は6ヶ月に一度の見直しを基本とし期間が終了する前であっても状態の変化に応じ見直しを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> <p>少しの変化にも目を向けそれに対応できるよう、個別記録内にはエピソード、気づきなどが記入できる欄を設け、介護計画に活かせるようにしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> <p>本人の思いや要望に則して職員の人員と残った利用者の待遇に支障がないことを条件に即座に対応していくようにしている。入院中の早期退院への支援。</p>	○	<p>今日は彼岸だからお墓まいりに行きたいとの要望に即時対応。入院中遠方の家族代わりに備品の準備や洗濯物など身の周りの世話。</p>
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p> <p>利用者が安心して地域で暮らし続けるため、周辺施設の方々にホームだより配布し理解と協力を呼びかけている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p> <p>必要があるときは連携し支援してゆきたいと考えている。</p>	○	<p>過去には本人希望により福祉会館へ障害者の会への行事参加など行っている。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p> <p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換や協力が可能な関係にある。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> <p>医療に関しては、本人や家族にホーム連携医かこれまでのかかりつけ医を選択して頂き納得のいく形で支援するようにしている。</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>本人の姿が思い浮かべられるよう細かく記入したサマリー及びセンター方式の情報やアセスメントシートなどを提供している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	10か月前までは、近隣の馴染みとなっていた美容室でパーマをかけていた方も認知症の進行により環境不適合からのストレスを強く表すようになってしまい残念に感じるケースも2件程あったが、これからも必要に応じおしゃれへの多岐なる支援をしてゆきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	焼肉とビール、ときには美味しい刺身と冷酒を近所のお店で楽しむ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し誘導や声かけなどで排泄の失敗を防ぐようにしている。尿意のない方にも排泄チェック表を使い時間誘導にてトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本入浴は毎日制限せずに行うようにしている。時間帯は現在、早く入りたいとの要望で日中に殆ど済んでしまうが、入居者の要望で夜の入浴支援を行って板こともあり、今後も柔軟に対応したい。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとり一人の心身への影響を鑑み休息をとってもらったり、日中の活動を増したり、不安へ対応し安眠へと繋げている。	○	寂しくて眠れない方の原因が過去の成育暦の中にあることが分かり就寝時間をこの方の眠いというサインが出るまで事務所で職員と過ごすことで安心が得られ睡眠のリズムの安定に繋がっている。
促したり				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個性と力を活かし支援している。上肢が使えない方が俳句作りを習字な得意な方が短冊に清書を。。。花の好きな方が水遣りの当番、歌好きの方が楽しく歌える空間をつくる、毎週マッサージに出かけ書店へ通い好きな本を買うなど。	○	身体的には全介助な方も昔から趣味だった俳句を作り、時の得意だった方に短冊へ清書してただき自室にやホールに飾るようにしている。毎週マッサージに出かけ帰りに愛読書を購入することが日課になっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望と力に応じ手元にもってもらうように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物、散歩、喫茶店や食事に出かけたり、カラオケの好きな方は行きつけカラオケ喫茶で人気歌手に変身したり、それぞれが社会と繋がった生活が送れるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思い出にでてくる場所や生まれ里へでかけたり、日帰りや一泊旅行を個々の要望や状態に合わせて実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も本人の要望や職員の読み取りで必要な時にその能力に応じて支援をしている。電話はコードレスなので室でゆっくり話していただける。手紙はお手伝いが必要な方は職員と一緒に考えたり代筆したりと大切な方への交流をサポートしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人、家族が気兼ねなく来て頂けるよう親しめる雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念を遂行することイコールであり、身体拘束のないケアを実践している。ミーティングや日々の申し送りの際に、ケアの振り返り、自己点検を行うようにしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1Fに事務所2F3Fに各ユニットのあり死角の多い建物の構造と、立地条件が幹線道路に面して危険が大きい点もあり1Fに誰もいないときは施錠しているが、入居者の動きに注意を払い出かきたいときには制止せず出かけられる配慮をし補うようにし鍵をかけないケアを実践している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながらさり気なく常に入居者を観察を行うように心掛けている。日中時間帯は皆さんの生活空間の中で記録記入も行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	無くすのではなく補う創意工夫で危険回避を行うようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとを記入し事故防止のための話し合いをしている。事故が起きた際は事故報告書を作成し、原因を検証し、今後の対応策へと繋げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は救命救急講習を全員受講し、消防署による初期対応の訓練や定期的な確認を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。地域の協力体制は運営推進会議を通し連携を図っている。	○	街づくり協議会主催の地区消防訓練へ地元の方々と参加している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にホームの目的や理念の説明と共にリスクについて説明している。以降の状態変化に伴うリスクは都度説明、話し合いを行っている。あくまでも本人の生きる力優先にし意義ある毎日を支援するためのリスクも高まることの理解を頂くようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、日常の様子も職員は把握している。少しでも変化や異変あるときは看護師へ報告早期に対応出来るよう努めている。又記録に残し情報を共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を共有できるように確認できる場所に置き、なんの為どんな薬を服薬するのかという目的を記録伝達し職員全員が内容把握できるようにしている。変化などは記録に残し医療との連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便への対応は、散歩や日中の活動を増やしたり、食事への対応などで自然排便へと取り組みを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じて声かけ、見守り又は介助を行っている。就寝前は義歯洗浄を行っている。	○	自分の歯が残っている方には歯科衛生士の訪問口腔ケアを提案し、ご意向を確認の上、受けて頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>認知症再重度状態にありミキサー食の方は時間、摂取状態にむらがあり、ゼリー状の補助食品水分補給時に利用している。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切な物使い慣れたものを置いていただく事は本人が心地よく安心して暮らせるため大切な要素であること入居前に説明をしている。家族と本人との関係の形によりごく一部の方ですが、タンスや日用品、化粧台を持ってきている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず空気の入替えをしている。天気の良い日には、窓を開け風の通りを良くしている。エアコンは入居者の様子を見ながらこまめに温度調節を行うようにしている。個々のお部屋はその方の体感や発汗や冷えの状態に合わせて調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現状の力を見極めながらその状態に合わせた環境整備を職員で話し合い行うようにしている。	○	居室に表札、目印になる物を整備。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周辺の利用をしている。	○	玄関アプローチには季節の花を育てている。玄関先にベンチを置き花をみながら心地よく外気欲が出来るようにしている。気候のよい時にはお茶を外で楽しんでいる。玄関脇にプランターで夏野菜作りをした。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自らの力を使い、互いに支え合い、社会とは繋がった人として当たり前前の生活を支援しています。大切な入居者を支える職員への育成指導の根源は、人を愛する気持ちと響き合う関係構築＝『響き愛』を忘れないこととし、本人本位の視点に立ち一人ひとりの思い、願いをしっかりと受け止めてゆきたいと日々努力しています。形や仕組みに囚われず出来得る限りお仕着せのない自由な心で生活してもらえる様に配慮し、閉塞感の無いよう日常的に外出しています（皆さんと変らない日々を送っています）。ホームの中では最近皆で歌を口ずさみながら楽しく家事をしている場面が多く、互いに垣根の無い関係を築けているようです、職員のちょっとした導きでそういう場面を入居者同士が築いてゆくことが出来る＝専門職としての役割だと思えます。更に歌にまつわる思い出話に花が咲き関係が深く楽しいものとなっていく... 職員の感性を高めイメージする力を養うことに力を注ぎ、より良い支援に繋がって行きたい。